



第3圖 波力発電機のいろいろ

この方法において困難を感じる點は、週期運動であるから發動機を用いる場合に電圧も電力も週期的に変化し、一樣な電力が得られない點であるが、益田氏はこれについて特殊の考慮を拂いその解決につとめた。また暴風時

に機械が破壊されないよう注意する必要がある。

最後に潮汐力の利用であるが、周知のように潮汐現象は海面が毎日二回づつ昇降するから、昇つた時に海水を廣い浅い貯水池に誘導して、それが干潮までの間に流出するのを利用して発電させる原理である。エネルギーとしては極めて大きいものであり、瀬戸内の兒島灣等で具體化されるうわさも古くから聞いているが、これもその後實施を見ない。波浪と同様、動力が絶えず増減することがこの裝置の缺點であるがこれもなんとか別に解決の方法があるであろう。

波力にせよ、潮汐力にせよ、その目的は主としてまず発電にあるから、わが國のように水力の豊富な國ではあまり實用化されるに至らないのではあるまいか。

(30頁より續く)

的に不可能でないことは太陽熱機關で動力を得て、これで蒸気壓縮式冷凍機の壓縮機を運轉するという方式を考えれば明瞭である。しかし原理上可能であるということになれば何もそんな不手際なことをしないで方法はある。吸収式冷凍機というものには日本では試作品以外には見られないが、米國などでは普通の小型冷凍機として普及している。これはモーターもなければ壓縮機もなく、裝置の一部を電氣ヒーター又はガスで加熱するだけでよい。冷凍をやるのにヒーターで熱するというのだから一見奇異な感じがするものである。このヒーターのかわりに太陽熱を利用することはどうだろう。一度湯をおかしてそれで加熱するのがいいかも知れない。伊豆方

面の温泉では温泉で加熱する吸収式冷凍機を作つて成功した人もあるという話であるから同様の手法で成功するに違いない。酷暑の候に、太陽が照りつけば照るほど冷たいビールやシロップができたりアイスクリームができてきたらこんな愉快なことはないであろう。

文 獻

- (1) 衛生工業便覽上巻(昭和23年)
- (2) Engineer 1912, 6月6日
- (3) 柳町政之助, 太陽熱利用の暖房並に給湯装置について, 衛生工業協會誌21卷第11~12號
- (4) 谷下市松: 埼玉縣水窪村における太陽熱利用の現況, 學術研究會議エネルギー經濟研究特別委員會第二分科會, 同分科會パンフレット昭和23年2月
- (5) 谷下市松: 太陽熱の利用に関する研究, 同パンフレット昭和23年2月

“生産研究” 第3卷 第4號 (工業分析特集號)

正 誤 表

頁	段	行	種別	正	誤
4	左	1	口繪	福田式	藤田式
7	〃	15	本文	協力者中には Upton	協力者中には Elihn Thomson, Upton
〃	〃	16	〃	後では Elihu Thomson, Houston	後では Houston
〃	〃	32	〃	11 kV, 150 kW,	11 kW, 150 kV,
11.	〃	下8	〃	直讀分光器	直讀分光器
〃	〃	8	〃	2. CH <sub>2</sub> (CO <sub>2</sub> C <sub>2</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>2</sub>	2. CH <sub>2</sub> (CO <sub>2</sub> C <sub>3</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>2</sub>
18	右	〃	〃	β結合の二糖類	β結合
〃	〃	9	〃	-guanine	-guanidire
〃	〃	11	〃	tetrazolium	tetrayolium
26	〃	6	〃	測定によつて	測定によつて
28	〃	2	〃	應用例	應用例
31	左	6	〃	分析計	分析量
32	右	1	〃	第9, 10圖	第8, 9圖
〃	左	4	〃	(削除)	ガラ分析による
〃	〃	24	式	精度は誤差數%	精度は數%
35	右	12	〃	$x = \frac{b(m-n)}{an} \times 100$	$x = \frac{b(m-n)}{an} \times 100$
40	左	16	〃	21, 32(1949)	21, 32(1944)
43	〃	下17	第1表	溶解する	作る